みんなの願いをあなたが専門職として支えてみませんか

いつまでも
心豊かに過ごしたい

新たなステージをめざす

福祉の挑戦者

［福祉の仕事 とやま就職ガイド vol.2］

自分らしい
生活を送りたい

楽しい
一日でありたい

生活のことを
だれかに相談したい

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会
富山県健康・福祉人材センター

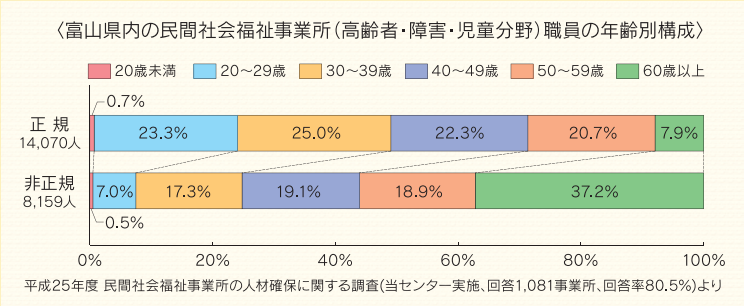
はじめに

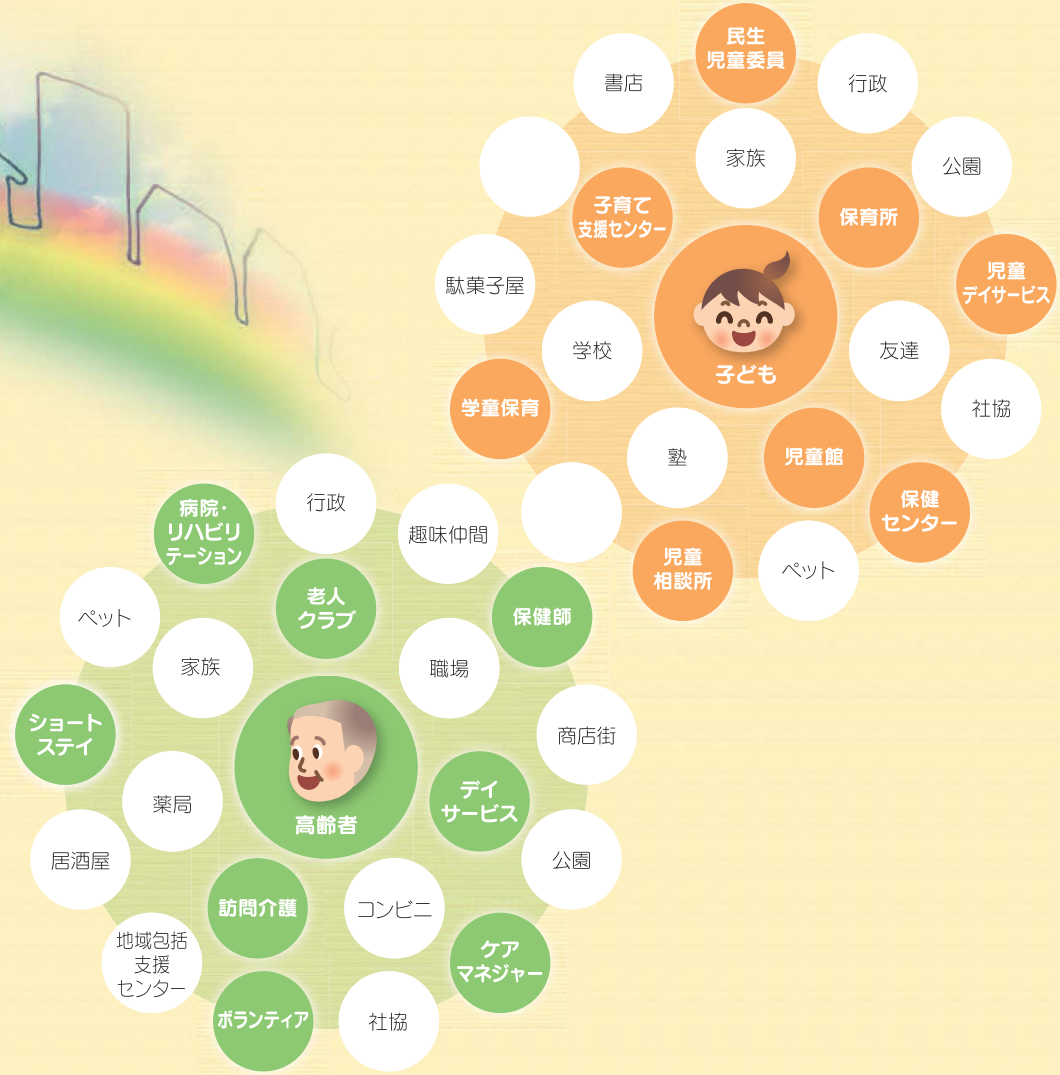
人はだれもがその人らしく生活するために、
家族や友人、会社や学校、病院やお店など・・・
その人をとりまく環境の中でお互いに関わりあっています。
そんななじみのある生活の中に「福祉」が存在しています。

「福祉とは何だろう」
「福祉の仕事って何をするのだろう」
「どんな職場があって、どのような人たちが働いているのだろう」

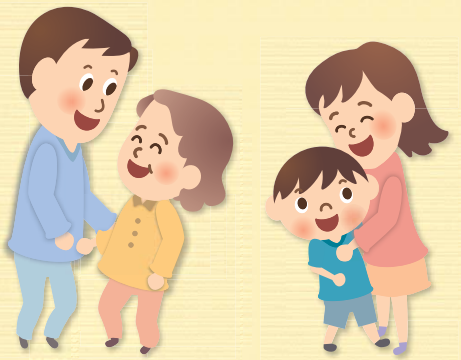
福祉の仕事は、人と人とが向き合う仕事です。
少子高齢化がますます進行して労働人口が減少する日本。
いま福祉の分野では、中高年世代の方々の豊かな人生経験や
社会人として培われてこられた様々な能力を求めています。

この冊子では、福祉の仕事に関心のある方や、
福祉の仕事に就職したいと思っている中高年世代の方に向け、
新たなステージで活躍している現場職員の方や
施設管理者の方からのメッセージなどを紹介します。





■ 福祉の仕事とは …… P.3
■ 福祉の挑戦者
1 通所介護 介護職 中島 恵利子さん …… P.5
2 介護老人保健施設 介護職 柴田 明美さん …… P.7
3 認知症対応型共同生活介護 介護職 道下 宏美さん …… P.9
4 認知症対応型通所介護 介護職 中田 実範さん …… P.11
■ 富山県健康・福祉人材センターってどんなところ？ …… P.13
■ 福祉の仕事に求められているもの …… P.14



福祉とは？

だれもがその人らしく幸せに生きること

「まわりの人から愛され、楽しい一日でありたい」

「自分で身の回りのことができなくても、自分で外出できなくても、
自分で選択したり判断したりできなくなっても、自分らしい生活を送りたい」

「これまでは自分でできていたことも、体が弱くなって難しくなってきたけれど、
いつまでも心豊かに人生を過ごしたい」

「子育てや介護、生活に不安になったとき、だれかに相談したい」

そんな願いを支えることが福祉の役割です。

福祉の仕事とは

人は、日々暮らしていく中で、加齢や病気などの生活環境の変化が訪れます。
そして、その人にとって快適な環境の中で、生きがいや希望を持って
暮らし続けることができなくなるときもあります。
福祉の仕事は、そうした人たちの「よりよい生活状態」を一緒に考え、
それを実現するための支援を「サービス」として提供する仕事です。
福祉のサービスを提供する施設や機関は数多く、その種類や職種も様々です。
ここでは、あなたの身近にある「福祉の仕事」について、その一部を紹介します。

障がいのある子どもに関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 障がい児施設
- 児童発達支援・放課後等デイサービス　…など

〈職　種〉
- 保育士
- 児童指導員　…など

障がいのある大人に関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 生活介護事業所
- 就労移行支援事業所
- 就労継続支援事業所
- 地域活動支援センター
…など

〈職　種〉
- 生活支援員
- 作業指導員
…など

その他生活支援が必要な人の相談・援助・調整に関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 社会福祉協議会
- 児童相談所
- 社会福祉事務所
- 保健所（厚生センター）
…など

〈職　種〉
- 社会福祉協議会職員
- ソーシャルワーカー
- 保健師　…など

子どもに関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 保育所
- 児童養護施設
- 児童館
- 学童保育　…など

〈職　種〉
- 保育士
- 児童指導員
- （管理）栄養士
…など

高齢者に関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 特別養護老人ホーム
- 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
- 通所介護（デイサービス）
- 訪問介護
- 小規模多機能型居宅介護　…など

〈職　種〉
- 介護職
- 介護支援専門員
- ホームヘルパー　…など

医療に関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 病院
- クリニック　…など

〈職　種〉
- 看護職
- 医療ソーシャルワーカー　…など

医療が必要な高齢者に関わる仕事

〈福祉の施設・サービス〉
- 介護老人保健施設
- 介護療養型医療施設
…など

〈職　種〉
- 介護職
- 看護職
- 理学療法士
- 作業療法士
…など

さらに詳しく知りたい方は
「福祉のお仕事アクセスガイド」
（全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター発行）
を参照してください。

仕事の分野	求められる主な資格
介護（ケアワーク）の仕事	○介護福祉士 ○介護職員基礎研修 ○ホームヘルパー1級、2級 ○介護職員実務者研修 ○介護職員初任者研修　など
保育の仕事	○保育士　など
相談援助の仕事	○社会福祉士 ○精神保健福祉士 ○社会福祉主事任用資格 ○児童指導員任用資格 ○介護支援専門員（ケアマネジャー）　など
看護・リハビリテーション関係の仕事	○看護師、保健師 ○理学療法士 ○作業療法士 ○言語聴覚士 ○視能訓練士　など
栄養・調理関係の仕事	○管理栄養士 ○栄養士 ○調理師
運営管理関係の仕事	

次のページからは、
“福祉の現場”で活躍している
職員のみなさんを紹介します！

福祉の挑戦者 1

社会福祉法人 光風会 **にながわ光風苑** 通所介護（デイサービス）

介護職 **中島（なかじま） 恵利子（えりこ） さん**

介護福祉士
介護支援専門員
歯科衛生士

39歳で介護職として再出発。社会経験や子育てが介護の仕事に役立ちました。

社会から取り残されたような…

「仕事に頑張り、社会と関わっている女性たちを見ていて、何か自分自身が社会から取り残されたような気がしていました。子育て中の専業主婦として頑張っている自分と、働きたいと思う自分にジレンマを感じていたんです」と10数年前を振り返る中島恵利子さん。結婚前は大阪で、歯磨き、ヘアケア製品などを製造販売する大手企業に勤め、歯科衛生士の資格を生かして口腔衛生の指導にあたっていました。結婚を機に帰郷してからは、妊娠8カ月まで歯科衛生士として仕事に打ち込んでいた自分との間にギャップが生まれていました。

子どもが幼稚園に通い始めたことをきっかけに、まずは社会と関わりを持ちたいと思い、パート職で宅配便会社の受付で働き始めました。いずれは正社員として長く働きつづけたいとの思いもあり、いつからか求人の多い介護職場に目が向くようになり、自費でヘルパー2級の資格を取得しました。その後、当時39歳という年齢で、介護の経験も自信も無かった中島さんは、不安ながらも「にながわ光風苑」の面接を受けることにしました。そして、面接官の方から「心配でしょうが、子育てをしていらしたのですから大丈夫。やれますよ」と背中を押されます。

「泣く子をあやしたり、ご飯を食べさせたりと、これまでの子育ての経験が役に立つと言われたのは初めてで励まされました。この施設の特徴である3日間の“おためし”期間をすすめられ、利用者の方からの『ありがとう』の言葉で介護の仕事に携わりたいと強く思いました」

利用者さんと同じ目線でお話します

“介護”とは

働き始めた頃は、「いま自分が何をすればいいのか、段取りがまったくわからず、右往左往するばかりだった」という中島さん。「そもそも“介護”と“世話”を勘違いしていました。介護とは、利用者さんの能力や持っておられる機能を生かし、自立を支援することですが、当時の私はなんでも世話をすることだと思っていました。いま思うと恥ずかしくなりますね」

壁を乗り越えることができたのは、先輩や若い人の仕事ぶりを見て、利用者さんの話をじっくり聞くことの大切さに気づいたからです。「利用者さんの希望を聞き、理解したうえでこういうやり方もあったんだ」とハッと思わせられることが数多くありました。

「相手の話をじっくり聞くことは、前の会社でのクレーム対応で学んだことです。相手が苦情を言っているときに、“だって”、“でも”では怒りが増すばかり。家庭でもそうだと思います。頭ごなしに子どもを叱ってもなかなか思うようにはなりません。じっくり話を聞いて、コミュニケーションを深めることが大切です。高齢の方の考え方が何となく分かるようになったのも、人生の経験を積んできたからこそかもしれませんねぇ」と中島さんは微笑みます。

職場では、利用者さんの1日の生活状態をパソコンに入力して、職員全員で情報を共有しています。新しいソフトが入ると、勉強会を開き、スキルアップを図っています。「最初は自信はなかったのですが、習うより慣れろで、毎日キーボードを触っていたら、打てるようになりました」

利用者さんの気持ちを尊重しつつリハビリをサポート

みんなで楽しく体操をしてリフレッシュ

職場と家族に支えられ

中島さんは特別養護老人ホームと通所介護で介護職の経験を積み、介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得。8年目に通所の主任に抜擢されました。「2人の子どもを育て、家庭と仕事を両立できたのは、職場の理解が大きかったからです。指定休暇制度があり、事前に申し込んでおけば、希望日に休みが取れます。学校の授業参観には必ず出席。運動会も毎年欠かさずに見に行きました」

「核家族で、夜勤は夜8時からだったため、子どもたちが小学生の頃は夕食や風呂も済ませ、あとは寝かせるだけの状態で、早めに帰宅してくれた主人にバトンタッチしました。この協力があったので仕事に頑張れました」

人一倍の明るさとバイタリティでリーダーとして活躍し、平成25年4月から通所介護の管理者に就任しています。

「毎日、心がけていることは笑顔。通所の利用者さんに元気が伝わり、笑顔でご自宅へ帰ってもらいたいといつも思っています。一方、ここではパートさんも大勢働いています。子育ての手が離れたあと、“ここでもっと働きたい”、“正規の職員になりたい”と言ってくれるようにスタッフを見守り、サポートして職場に笑顔をあふれさせたいですね」

一般の人も利用できる喫茶コーナー

・・・ 利用者さんから ・・・

高橋 千恵子 さん

日射しいっぱいの喫茶コーナーでティータイムを楽しみ、みなさんとおしゃべりするのが日課です。施設の方に指圧をしてもらうと心身が癒されます。

施設管理者から求職者の方へ

施設長 **浅野 紀夫 さん**

にながわ光風苑は昭和56年に開所しました。特別養護老人ホームとしては、富山市内で5番目の施設です。平成16年にユニット型を導入し、20年にほぼ全室個室になりました。

当施設では、介護について未経験の方の採用を積極的に行っています。年齢に関係なく働く意欲があり、挨拶ができて、素敵な笑顔があれば、経験や資格がなくても、介護の仕事はできます。気持ちが“真っ白”というのは逆に武器です。真綿が水を吸収するように、経験を重ねていけば、力が自然に身に付いていきます。

特に女性は子育てを経験し、日常の生活で家事もなさっていますから、仕事に取り組みやすいと思います。パソコンが苦手という方もローマ字入力ができれば大丈夫です。初心者レベルからお教えします。

介護職は体力勝負のイメージがありますが、ベッドの背もたれは電動式ですし、入浴介助の際には介護リフトを使用しますので、体力面での心配は要りません。

就職されたあと、自己研鑽した方と、決められた仕事だけをこなした方とでは能力や技術に大きな違いが出てきます。自分なりに目標を設けて、仕事に向かってほしいですね。

福祉の挑戦者 2

医療法人社団 にしの会 **にしの老人保健施設**

介護職 **柴田（しばた） 明美（あけみ） さん**　ホームヘルパー2級

“やっぱり家がいい”と利用者のみなさんはおっしゃいます。

利用者さんが入所されたときは歩けなかったけど、リハビリで歩けるようになり、自宅に戻られる姿を見ると、「介護できて本当によかった」と思い、達成感とやりがいを感じる瞬間です。施設のサービスが充実していても、「やっぱり家がいい」と、利用者のみなさんはおっしゃいます。

就職して4年目になる柴田明美さんは、利用者さんをどのように介護するか、どう声をかけて元気になってもらうか、「毎日考えるのが楽しくてなりません」と、明るく話します。

自宅に戻れるようにリハビリをサポート

もっと介護の知識があったら…

和装販売の仕事を30年間続けてきた60歳の父親が、十数年前に自転車で転倒し、自由に動けなくなりました。幸い療養施設でのリハビリで、支えがなくても自分で動けるようになり、自宅へ戻ることができました。父親の仕事を支えてきた柴田さんは、訪問介護職員（ヘルパー）のサービスを利用しながら母親と二人で介護もすることになりました。担当のヘルパーの方からは、デイサービスの利用も勧められましたが、父親の「家にいたい」との願いもあり、自宅で支え続けました。残念ながら69歳で他界され、「もっと介護の知識や技術を知っていれば、快適に生活できたのでは…」と悔やみました。

その後1年間は、何事に対しても無気力になり、休職せざるを得なくなりました。父親と過ごした介護の日々が思い出されるたびに「介護の仕事に携わりたい」という気持ちが膨らんでいきました。長い間勤めたいとの思いから様々な施設を見て回るうち、以前に祖母が入所していた現在の職場の病院から、「うちの施設を見学してみませんか。向かないようならその時点で引き返せばいい」と、言われて気が楽になりました。

そこは、80～90代の患者さんが療養している静かな空間でした。「なぜか自然に心が落ち着いてきたんです」看護師さんや介護職員さんの仕事ぶりを見ているうちに「自分もこの人たちに携わり、父親にできなかった介護をしてみたい」と強く思い、転身を決意しました。

小さなよろこびの積み重ね

1年間パートとして働きながら、ホームヘルパー2級の資格を取得。その仕事ぶりが評価されて2年目に正職員に採用されました。最初の頃は利用者さんにどう接していいのか全くわからず、失敗しては、「ごめんなさい。今度から気をつけます」と、謝ってばかりいました。

家族介護の経験があっても、人によって対応の仕方が異なるところが、人の介護をする仕事の難しさです。「介護の仕事は利用者さんから学ぶことが多くあり、日々勉強です。だから楽しいし、続けられるのだとも思います」

始めは、“えんげ”（嚥下）や“そしゃく”（咀嚼）の意味がわからず、漢字も読めなかったそうです。看護師の方に処方される薬の作用や副作用について教わることで、利用者さんの状態が徐々に分かるようになり、より適切な介護ができるようになっていきました。

利用者さんからは、「ありがとう」と、あいさつのように言われています。「ここまで感謝される仕事は、そうはないと思います。利用者さんに名前を覚えてもらうと、必要としてくれていると思って、さらにうれしくなります」小さな喜びですが、その積み重ねがこの仕事のやりがいにつながっています。

みんなで楽しく体操をしてリフレッシュ

爪切りも大事なコミュニケーションのひとつ

娘が看護助手に…

20歳と21歳の二人の娘さんからは「お母さん、前より心が丸くなったね。いまのほうが好き」と言われています。「前職ではいつも笑顔でいることを心がけていましたが、きっと今は自然に笑顔になっているのかもしれません」営業活動や父親のこともあって、子どもたちの話をじっくり聞いてあげる余裕もなかったのです。「私の心の中も見抜かれていたんでしょうね」

下の娘さんは、母親の姿を見て、看護や介護、福祉について興味を持ち、看護助手として病院に勤め始めました。「私の仕事を認めてくれたんだ」と、うれしくて仕事の励みになっています。

勉強したことが一番自分のために

施設内の職員食堂では、ごはんと味噌汁は無料で提供されています。「体力あっての仕事ですし、手間もかからず、家計も助かってます」職員を大切にしてくれる職場で、申請すれば連休も取れ、母親との小旅行も計画中です。

今年、職場からの支援もあって、介護福祉士の資格取得試験を受験しました。「結果はまだわかりませんが、一生懸命に勉強したことが、一番自分のためになった」と今は思っています。

「もし合格したら、今度は認知症ケア専門士に挑戦しようかな」利用者さんの、その人らしい生活をどう取り戻すか、あるいはそれに近づけるか。そして、心が穏やかになるため、QOL（生活の質）を高めるにはどんな介護をすればいいのか。「病気についての知識も深めていきたいですね」

利用者さんから

西島 アヤ子 さん

この施設に入る前まで骨折した足を満足に動かすこともできず、この先どうなるのか不安でなりませんでした。柴田さんや職員のみなさんが親身になってお世話くださり、安心して毎日を過ごしています。

施設管理者から求職者の方へ

施設長 **西野 一晴 さん**

にしの老人保健施設は、医療法人社団にしの会・西野内科病院を母体に、平成2年に設立されました。小矢部市中心部という立地の良さを生かし、利用者さんがいきいきと過ごせる施設を目指し、心のこもったケアを心がけています。

先代（施設長）の時代から「門戸を叩く者は拒まず」という方針で、若い方から中途採用の方まで年齢に関係なく、能力を備えていれば採用を考えてきました。「継続は力なり」という言葉もありますが、職員が生きがいを持ち、長く仕事を続けられるように、施設では働く環境や資格取得などをバックアップしています。

求める人材としては、元気な笑顔で頑張れる人、機転が利いて他の職員とも仲良く仕事のできる人がいいですね。福祉の世界はチームワークが大切です。職員が連携して利用者さんをお世話するわけですから、協調性がないと勤まりません。先代が掲げていた言葉に「和顔愛語」があります。いつでも和やかな笑顔と優しい言葉という意味ですが、辛いときでも笑顔を絶やさずにいれば、どんな困難も乗り越えられます。笑顔で挨拶すれば、自分自身の活力につながり、他の職員、利用者さんにも明るさが伝わります。

福祉の挑戦者3

社会福祉法人 宇奈月福祉会 グループホームくぬぎの里

介護職 道下（みちした） 宏美（ひろみ） さん　ホームヘルパー2級

「私、役に立ったんだ」このうれしさが介護の世界に入るきっかけでした。

介護職員として働く前は、派遣社員として病院の受付で医療事務の仕事をしていた道下宏美さん。ある日、院内で車椅子の患者さんから「ちょっと手伝ってくださいませんか」と声を掛けられ、手助けしようとしたものの、上手く車椅子を押すことができませんでした。

「介助の知識や技術があったらもっと上手く押せたのに」と、悔しい気持ちでいっぱいになりました。それでも「本当に助かったわ。ありがとう」と言われ、「私、役に立ったんだ」と、うれしくてたまりませんでした。

道下さんはこの出来事をきっかけに介護に興味を持ち、自費でホームヘルパー2級を取得しました。その講習を受けていくうちに介護に魅力を感じ、やりがいのある仕事だと強く思うようになりました。

そして、平成21年4月に開所した「くぬぎの里」へ同時期にパートとして就職。昨年から正職員として採用されています。

利用者さんに受け入れてもらえた

「くぬぎの里」は、高齢者の方のグループホームです。利用者さんの日々の様子を見ながら、食事や入浴、排せつなど、できることをしていただき、その人らしい生活を支援しています。

道下さんは、働き始めた頃、利用者さんから自分を拒否されたことがありました。ショックでしたが、ほかの職員の仕事ぶりを見て、一呼吸置いてから優しく声をかけ、接することを学び、利用者さんに受け入れてもらえるようになりました。

思い出に残っているのが入所したばかりの利用者の方が、「どうしても自宅に帰りたい」と、施設から自分の家に向かって歩いて行かれたことです。その頃の道下さんは、利用者さんの思いをわかってあげることができませんでしたが、先輩から『その人の気持ちになってみればどう』と教わりました。利用者さんと先輩と一緒に、車で黒部のご自宅まで行きました。利用者さんは家や庭を見て安心され、ようやく落ち着かれました。

利用者さんの気持ちになり、その人らしい生活を支援

利用者さんは人生の先輩!!

食事の準備の時間、何人かの利用者さんと職員とが一緒になってテーブルに箸や茶碗を並べています。台所では味噌汁を作ったり、ごまをすったり･･･。まるで和やかな家庭の風景です。

利用者さんができることは、なるべく手伝ってもらっています。“トントントン”とキャベツを上手に刻める方、梅干しや保存食の作り方を教えてもらうこともあります。人生の先輩として、尊敬できることがたくさんあります。

家庭のような雰囲気で笑顔でお話します

一見、遠回りしたみたい

食事の最中に食べにくそうにしている利用者さんに、「かみ合わせはいかがですか。お口を見せてもらっていいですか」と優しく声をかけます。実は、高校卒業後、9年間歯科助手として働いていた経験があります。「介護の仕事に就くために歯科助手や医療事務を経験してきたのかな」と思うことがあります。利用者さんの服用されているお薬の効用についても少しはわかります。一見、遠回りしたみたいですが、気づかいや言葉づかい、あいさつなど、これまでの経験が生かされていると実感しています。

髪を整えるなど細かな気配り

利用者さんの笑顔がエネルギー源

40歳で介護の世界に入ることに最初は家族にもとまどいがありました。でも、当時3歳だった娘が今や小学1年生。毎朝「行ってらっしゃい、頑張ってね」と応援してくれます。早出の時に片付けをしてくれる主人や義父母のバックアップもあって「安心して続けられます」と、家族への感謝の気持ちも忘れていません。

介護の仕事をずっと続けたいと、介護福祉士の資格取得にも挑戦しています。「先輩から、60歳で介護福祉士になった人がいると聞いたんです。もしかして、自分にもできるかなって」

ふと目標に向かって頑張るうち、いつの間にか心にゆとりがなくなる時もあります。そのためによく寝ます。そしてたまにですが同業の友人と情報交換、ランチなどにも出かけます。「一番心がけている事は、笑顔。笑顔で接すると、優しくしようとする気持ちが利用者さんに伝わり、自然に受け入れてもらえるようです。利用者さんから笑顔をいただき、それを再び自分のエネルギー源にしています」

千羽鶴やお花を飾った和やかな空間づくり

･･･ 利用者さんから ･･･

石塚 加代子 さん

食事の支度のとき、下ごしらえをしたり、盛り付けをしたりすると、職員さんから「助かります」「手ざわがいいですね」と言われています。みんなでおしゃべりしながらいただく食事の時間はとても楽しいです。

施設管理者から求職者の方へ

理事 施設長 岡﨑 文夫 さん

当法人の特別養護老人ホーム「おらはうす宇奈月」は、平成6年当時、全国初の完全個室の施設として誕生しました。そして、地域福祉に根ざしたその運営方法を生かし、グループホームくぬぎの里が平成21年に開所しました。

介護の現場は、まだまだ社会的に十分な評価を得られているとは言えません。当施設では中途採用者の方の力にも期待し、実務経験3～4年の40～50代の方の正職員化を進めています。

介護の仕事は職員同士のチームワークや、利用者さんとの信頼関係が大切です。職員には、“心の底から笑顔で利用者さんと接してください”“自分がしてほしいと思う介護を提供してください”と常々言っています。最初から100%の力を発揮できる完璧な人はいません。仕事に対し、使命感と誇りを持ち、「より質の高い介護サービス」を提供できるよう、専門的な知識や技術を高めていってほしいと思います。

当施設では、昨年の4月から研修委員会を立ち上げ、県内外の研修をはじめ、大学や民間が主催する講習会などへの参加を職員にすすめています。このときは出張扱いとなり、テキストなどの購入費用も当施設で負担しています。研修で学んだことを発表してもらい、他の職員も情報を共有できるようにしています。

福祉の挑戦者4

社会福祉法人 戸出福祉会 認知症対応型通所介護 **だいご清水館**

介護職 **中田 実範**（なかだ みのり）さん

介護福祉士
介護支援専門員
ホームヘルパー2級

転勤族から54歳でふるさとの介護職に。苦手なことは補ってもらっています。

中田実範さんは現在、64歳。認知症対応型のデイサービスセンターで、パート職員として午前9時から午後4時まで働いています。男性・女性にかかわらず、利用者さんの入浴や食事、排泄など生活の介助をします。「特に、言葉遣いや視線に気をつけています。『男性職員に介助してもらうのは嫌』と言われたときには、女性職員に手伝ってもらっています」実は、この仕事に就く前は「果たして男に介護ができるのだろうか」と不安に思っていました。

利用者さんと一緒に楽しむレクリエーション

今までの生活レベルを維持したい

中田さんは元転勤族で、53歳で退職し、介護の世界に入って10年余りになります。前の職場では、新潟や北陸各県での勤務でした。たまの休みには両親の受診等の付き添いなどで、ゆっくり休養を取る間もなく、自宅から金沢市まで30kmの通勤ですら疲れを感じていました。職場内での自分の先行きが見え、年老いた両親が体調を崩したことを契機に退職を決意。「今まで頑張ってきたし、少しゆっくりしよう」と考えていました。

幸い、両親と自分の体調は回復しましたが、今までの生活レベルを維持するには、生活費や今後の蓄えが心配になり、再就職のために動き始めました。

ある日、ハローワークで、「介護の仕事はどうですか」と職業訓練でヘルパー2級の取得を薦められ、両親の世話にも活かせると思い、受講することにしました。取得後に情報収集のため、「福祉職場説明会」へ出向きます。そこで偶然に現在の職場の法人ブースで「あなた、後日、面接してみませんか」と、声をかけられて採用が決まり、通所介護のパート職員として働き始めました。

「退職後、10カ月余りで介護の世界に転職するとは思ってもみませんでした。10年前の介護現場は20～40代の女性職員が中心で、男性職員は少数でした。職場では新人ながらも一番年上。54歳からの再出発ですから、なかなか仕事が呑み込めなくて…」と、当時を振り返ります。

「1年間は他の職員の動きを“見て覚える”の毎日です」送迎の道順もなかなか頭に入らず、仕事が終わったあとにもう一度車を走らせたこともありました。また、専門書を読み、参考になる箇所をパソコンに入力して整理していきました。そして、1年2カ月後には準職員となり、心にも余裕が出てきて、利用者さんへの目配りや気配りができるようになっていきました。

特に、利用者さんと年齢が近いため、懐メロを一緒に歌ったり、思い出を語り合ったりして、話がはずむこともしばしばでした。

いつもにこやかに接することを心がけて

地域社会への視野が広がった

中田さんは、4年目の58歳で介護福祉士の資格に挑戦し、翌年に再度挑戦して取得しました。さらに次の年には介護支援専門員（ケアマネジャー）の資格も取得しました。

「休日の午前中に農作業をこなし、午後から図書館へ行って勉強しましたが、やたら眠くて。足をつねりながら睡魔とたたかいました」このような挑戦が後輩たちへの刺激となったようで、「うちの職場で合格者が増えたと聞いたときは、うれしかったですね」

介護支援専門員の仕事を始めた中田さんは、利用者さんの毎日の生活状態や身体機能の変化を、自宅へ伺ったり、関係機関との連携から得た情報で、通所や短期入所等のサービスの利用について利用者さんと相談してきました。

利用者さんを取りまく“家族”“地域住民”“施設や病院”“関係機関”等を考え、ケアプランを作成していくうちに利用者さんの生活全体を広い視野で考えることができるようになりました。

ここが自分の最後の職場

やりがいを感じて仕事にのぞんでいた中田さんでしたが、だんだんパソコンの画面が見づらくなるという試練が訪れます。「何とか治療できないものか」と病院へ出向きましたが、「もう、パソコンに向かう仕事は無理ですよ」と、医師から告げられます。

2年間続けてきた介護支援専門員の仕事をあきらめ、退職を覚悟しましたが、法人内に現在の職場が開所することになり、パートの介護職員として再び働くことになりました。

「介護の仕事は、職員間の連携が必要です。各自の苦手なところをお互いが補ってこそ、職場が成り立ちます。50代で中途採用されるということは、若い人からの指示や注意を受けながら“学ぶ”という姿勢がいるのです」と割り切ることができたのも、以前の職場で自分より若い上司に仕えてきた経験が生きています。逆に、若い仲間たちと一緒にいることが、中田さんのパワーの源になっています。「自分の職歴を引きずることなく、ここが最後の職場という自覚を強く持つことで、ここまで続けてこられました」と明るい笑顔で話します。

手拍子で利用者さんものびのび歌います

・・・ 利用者さんから ・・・

箱井 美和子 さん

毎週火・水曜の2日間、デイサービスを利用しています。歌謡曲を聞いたり、歌ったりするのが大好きで、カラオケタイムが楽しみです。顔馴染みの皆さんと一緒に歌ったり、おしゃべりをするのが元気の秘訣です。

施設管理者から求職者の方へ

館長 **牧野 正裕** さん

だいご清水館では、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所の3事業を運営しています。通所介護は「認知症」の方が対象で、1日12名が定員となっています。小規模多機能型は登録定員が25名で、通い・泊り・訪問の3つのサービスを組み合わせて提供しています。小規模の場合は、利用者さんの登録者数が制限されていることに加え、同じスタッフがいずれのサービスも提供することで、関係性が築きやすいといった特徴があります。

ここでは、卒業後すぐの方だけではなく、社会経験や子育てを経験されてきた方も積極的に採用しています。体力面の心配やパソコンが苦手という人でも「やる気」のある方は施設がバックアップします。「介護がしたい」といった気持ち で就職を希望される方をお待ちしています。介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員などの資格取得後には、報奨金を出すことにしています。

介護の職場はまだまだ男性が少なく、男性ならではの物事に対する見方や見識により、利用者さんと新しい関わり方ができるなど、活躍できる場は多いと思います。年齢や性別は採用基準ではありません。やる気があり、「この方だったら任せられる」ということを一番の採用基準としています。

福祉の仕事に興味や関心がある・・・ 福祉の職場を見 てみたい・・・
そんなあなたを、富山県健康・福祉人材センターが応援 します！

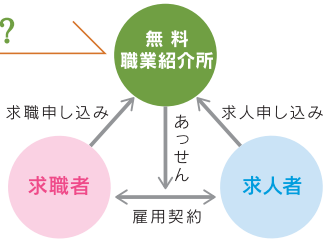
富山県健康・福祉人材センターってどんなところ？

当センターは、福祉・介護分野専門の無料職業紹介所です。
求人及び求職の申し込みを受け、求人者と求職者との間における雇用関係の成立を第三者として支援します。

ただし、求職者および求人者の取扱い範囲が次のとおり定められています。

求職者 富山県内での就労を希望する方

求人者 就労場所が富山県内のもので、福祉関係の法律で定められている福祉・介護の事業所など



事業所からの指名制度

より精度の高いマッチングを行うため、同意された求職者の方の情報（任意の受付番号、希望勤務地の市町村名、性別、年齢、学歴、資格、職歴の有無、希望分野・職種など、個人を特定できない項目のみ）をホームページに掲載することで、事業所から面談希望の指名が受けられます。

登録から就職までの流れ

登　録	有効期間は登録月を含めて３カ月です。（延長可）
相談・説明	まずは意向をお聞きしたうえで、ご説明します。
オリエンテーション	職場・職種、求められる人材などについて講習します。
求人一覧の送付	毎月1回、冊子をご自宅へお送りします。
求人票の閲覧	窓口またはホームページで最新情報がチェックできます。
見学・職場体験	希望に応じて登録されている事業所と仲介します。
あっせん・紹介	両者の日程を調整のうえ、紹介状を発行します。
応募書類の送付	履歴書、資格証明書、職務経歴書などを求人先へ送付します。
選　考	内容は、書類審査、面接、筆記試験、作文などがあります。
採　用	求人者から電話連絡、郵便などで採用の通知が届きます。
登録の取り下げまたは延長	登録の取り下げまたは延長の希望を伺います。

福祉職場説明会

福祉就労オリエンテーション

このほか、福祉・介護の人材確保・定着のため11の事業を行っています。
（平成26年度現在）

- **福祉・介護人材マッチング強化**　キャリア支援専門員をハローワークに派遣
- **福祉職場説明会**　求人者と求職者が一堂に会して面談
- **職場体験**　未経験の方を対象に福祉・介護の仕事を体験
- **介護職員フォローアップ研修会・交流会**　勤続3年未満の職員を対象
- **福祉の仕事セミナー**　一般求職者の方を対象に講演
- **事業所情報の収集・提供**　事業所一覧の作成と調査の実施
- **親子夏休み福祉の仕事バス教室**　小学生を対象に見学と体験
- **保育士・保育所支援センター**　再就職コーディネーターを配置
- **高校生等の福祉の魅力体験**　働く人のお話や職場体験
- **介護福祉士修学資金貸付**　養成校の学生等を対象に学費等を貸し付け
- **がんばる介護職員の応援**　表彰と紹介

ホームページ 福祉のお仕事をチェック！

「福祉のお仕事」は、中央福祉人材センターと各都道府県福祉人材センター・バンクが運営する、福祉分野の求人情報に関する日本最大のWEBサイトです。

求人情報だけでなく、各施設や事業所の理念・サービス内容や福利厚生に関する情報のほか、就職活動に役立つイベント等の最新情報も掲載しています。

福祉のお仕事 検索

ホームページ「福祉のお仕事」におけるマイページ登録

そんなあなたにおススメです！

- 毎日「福祉のお仕事」をチェックするのはむずかしい
- 「いいな」と思った求人をいくつか比べてから考えたい
- 今すぐ就職というわけではないけれど、情報はチェックしておきたい

- 「求職者マイページ」に登録すると、あなたの希望条件に合う求人票を毎日自動で検索します。
- 検索結果は、「求職者マイページ」からチェックでき、新着求人はEメールでもお届けします。
- 当センターが主催する「福祉職場説明会」や「福祉の仕事セミナー」「福祉就労オリエンテーション」などのお知らせもEメールでお届けします。

福祉の仕事に求められているものって？

［求められる特性などの一例］　― あなたはいくつ該当しますか ―

健康に自信がある	□	利用者さんを支援するには、体力づくりやストレスの解消など、まずは自分の心身に余裕が必要です。
笑顔であいさつができる	□	利用者さんとのコミュニケーションはもちろん、職場の雰囲気づくりにも大切です。
相手に向き合って共感できる	□	どんな状態の利用者さんでも一人の人間として接し、理解することが支援の第一歩です。
人の和を重んじている	□	職種を超えて仲間を受け入れ、相手をほめることで連携が生まれ、利用者本位のサービス提供につながります。
向上心が旺盛である	□	あらゆる介護の場面に対応するため、知識や技術の習得に日々努めていくことが重要です。
失敗を教訓に再挑戦できる	□	同じ過ちを繰り返さないのはもちろん、前向きにとらえることのできる強さが必要です。
自分の感情を操作できる	□	利用者さんが感情を表現したことに対して自分の感情が動いてしまい、相手にマイナスの影響を与えないようにします。
秘密やルールを守る	□	利用者さんのプライバシーや尊厳を守るため、高い倫理性と責任感が求められます。
変化に気づいて行動できる	□	職員ひとり一人が利用者さんを観察する注意力と対応能力を持つことで、施設全体のサービスの向上につながります。
パソコンや記述が得意である	□	介護報酬の請求のため、パソコンで介護記録を入力したり、簡潔で正確な報告文の作成が必要になります。

希望者全員が65歳まで働ける制度へ

高年齢者雇用安定法が改正され、平成25年4月1日から、労使協定により事業主が継続雇用の対象者を限定する基準は認められなくなりました。これにより事業主は、次の①～③のいずれかの対応が必要になります。

①65歳以上までの定年年齢の引き上げ
②希望者全員を対象とする65歳までの継続雇用制度の導入
③定年の定めの廃止

ただし、平成37年3月31日までは、年金の比例報酬部分の支給開始年齢に合わせて、事業主が継続雇用の対象者を限定できる「経過措置」が設定されています。

くわしくは、労働局またはハローワークへお問い合わせください。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

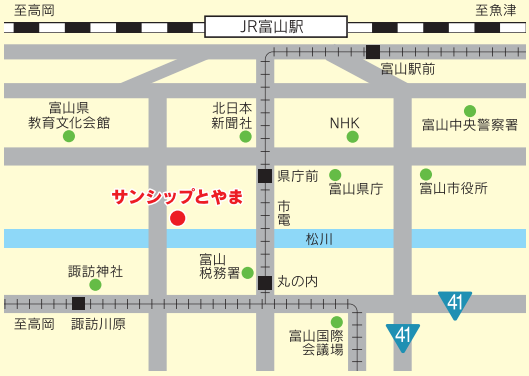
富山県健康・福祉人材センター

（無料職業紹介事業許可番号　16-ム-010005）

〒930-0094　富山県富山市安住町5番21号　富山県総合福祉会館（サンシップとやま）2階

TEL.076-432-6156　FAX.076-432-6532

E-mail jinzai-center@wel.pref.toyama.jp



P 141台（身障者用28台含む）

相談受付時間／平日：月曜～金曜　8:30～12:00　13:00～17:00

土・日・祝日は閲覧・登録のみ可。年末・年始は休み。
後日、来所または電話にて相談をお受けします。

■ パソコン版

福祉のお仕事　福祉のお仕事　検索

■ モバイル（携帯電話）版　ケイタイはこちら→

福祉のお仕事 mobile